

## 「日本の宝」9条を守りたい

居ても立ってもいられず、芦屋での集会・デモに初めてという友達と参加した。九条の会の方たちの集会だと思っていたら、さまざまな人が来ていた。今までの集会は〇〇党の集会とか〇〇組合の集会とか、一つのグループの人たちが行うものが多かった。今回は「安保法案反対」という一点で集まっていた。普段の活動や主義主張が違っていても、みんなに呼びかけて声をあげていく、そんなネットワークができていくのだと心強く思った。個人でも気軽に参加でき、みんなで声を上げられるような、そんな集会が増えていくといい。国会でもいくつかの野党は今回、協力して法案阻止に動いた。これからもそうあって欲しいと思う。

法案は、大変くやしいけれど成立してしまった。世界には、戦争をする国はいくらでもある。でも、日本はまるで奇跡のような平和憲法をもっている。この宝をそのまま壊されるわけにはいかない。一緒に行った友達と「これからも参加し続けようね」と話している。  
(芦屋市 Y. K)



## 70年前の子から今の子へ

戦時中の話は子どもにもあまり話してこなかった。私ぐらいの体験はざらにあり、愚痴になってしまいそうで。子育て支援のNPOが「70年前の戦争体験を孫に語るように今の子供たちに伝えて」と呼び掛けているのを知り、思い出してみる。

育ったのは堺の郊外、疎開児童を受け入れていた地元の学校まで空襲により焼失、農道を1時間かけて隣の学校へ通っていたある日、姉が機銃掃射にあい、震えて帰ってきた。死はいつも身近にあった。

戦地に行った兄の陰膳を仏壇に供え無事を祈って1日が始まる。食料不足はひどく庭は畑と防空壕になった。何もかも不自由な生活の中で、兄の帰還だけが家族の思いの支えだった、その兄が戦死した。フィリピンで、23歳の可能性をいっぱい残したまま。

洋裁をしていた姉のスタイルブックの西洋人モデルに大きく赤ペンでバツ印を入れ「鬼畜米英」と書かれていた。ごく普通の家庭の人たちをそのように追いやる周辺大人達の異常さ。イラク戦争でまだ幼い男の子が機関銃を掲げて「ジハード/聖戦」と叫んでいるのと同じ状況が私の身近にあった。

教科書の不都合な所を墨で塗った2年生の私の記憶。

ごく普通の家庭の体験を語り継がれていないと戦争の記憶は薄れ、遠い昔の他人事になってしまう。



(東灘区 佐々雅子)

### 違憲の戦争法廃止！

10・21 国際反戦デー 芦屋連帯集会

日時:10月21日(水)18:00~

場所:芦屋市役所北広場

(阪神芦屋駅南)

約30分の集会後、JR芦屋駅までデモ行進。

1966年10月21日、全国規模で行われたベトナム反戦運動を嚆矢とする国際反戦デー。芦屋では



毎年継続して実施しています。芦屋「九条の会」をはじめ4団体共闘で「戦争法廃止」を市民に訴えます。

### 山中市長「安保法制強行採決反対」

芦屋市の山中市長は、参議院で審査中の9月11日に尼崎市、宝塚市、篠山市の市長らと共に「安保法案の強行採決反対」の共同声明を発表しました。山中市長は、「少しでも戦争に近づくことがあってはならない」と朝日新聞の取材に回答。

6月の芦屋市議会でも、「安保法制に反対」であることを表明しています。